月 日 名前

落ち葉のゆくえ

標準（ひょうじゅん） ⑧

落ち葉のゆくえ

秋が深まると、公園や山の道には落ち葉が積もる。だれもかたづけない山の中では、毎年たくさんの葉が落ちるのに、落ち葉で山がうまってしまうことはない。なぜだろうか。

落ち葉の下の土を、そっとほってみよう。上の方には形の残った葉があり、下へいくほど葉は細かくなって、やがて黒い土に変わっていく。この変化を進めているのが、土の中の小さな生き物たちである。

ダンゴムシやミミズは、落ち葉を食べて細かくする。そのふんや細かくなった葉を、カビやバクテリアなど、目に見えないほど小さな生き物がさらに分解する。こうして落ち葉は、養分をふくんだ土になっていくのだ。

植物は、その養分を根からすい上げて育つ。そして秋にはまた葉を落とす。つまり、落ち葉はごみではなく、森の命を次へとつなぐものなのである。

冬の森を歩く時には、足元の落ち葉の下で続いている、静かな仕事を思いうかべてみてほしい。公園の落ち葉を集めて、たい肥という土作りの材料にしている町もある。人も、この自然の仕組みを生かしているのである。

1 落ち葉を食べて細かくする生き物を、一つ書きましょう。

（ダンゴムシでもよい）

2 カビやバクテリアは、どのような働きをしていますか。

ア 細かくなった葉をさらに分解する。

イ 葉を木にもどす。

ウ 土を固くする。

3 「落ち葉で山がうまってしまうことはない」のは、なぜですか。

4 筆者は、落ち葉をどのようなものだと述べていますか。

ぜんぶ できたら ほしに いろを ぬろう ☆ ☆ ☆

© きりんドリル kirindrill.com